

第2学年1組 保健体育科（体育分野） 学習構想案

日 時 令和2年11月27日（金）第3校時
 場 所 芦北町民総合センター（スカイドーム）
 指導者 教諭 後藤 英治
 A T 飯村 吏毅哉

1 単元構想

単元名	武道 「空手道」		
単元の目標	(1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて簡易な型を展開することができる。 空手道では、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、突いたり、受けたりすることなどの簡易な攻防をすることができる。 (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。 (3) 武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができる。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	【知識】 ① 武道は対人的な技能を基にした運動で、わが国固有の文化であることを言ったり書きだしたりしている。 ② 武道には技能の習得を通して、人間形成を図るという伝統的な考え方があることについて、言ったり書きだしたりしている。 ③ 武道の技には名称があり、それぞれの技を身に付けるための技術的なポイントがあることについて、具体例を挙げている。 ④ 武道はそれぞれの種目で、主として高まる体力要素が異なることについて言ったり書きだしたりしている。 ⑤ 試合の行い方には、ごく簡易な試合におけるルール、審判及び運営の仕方があることについて、具体例を挙げている。 【技能】 ① 基本となる動作や相手の動きに応じた基本動作を活用しながら、演武することができる。 <基本となる動作> ・ 受けてから突くこと ・ 受けてからさらに受けること ・ 突いてから突くこと ・ 受けてから蹴ること ・ 突いてから蹴ること <相手の動きに応じた基本動作> ・ 立ち方では、相手の動きに応じやすい自然体で構えること ・ 基本の突きでは、前腕が体側をするようにこぶしをひねり出すこと ・ 基本の受けでは、こぶしをひねりながら受けること ・ 基本の蹴り（中段蹴り）では、指先を反らし上足底で蹴り、構えに戻ること	① 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ② 提供された練習方法から、自己の課題に応じた練習方法を選んでいる。 ③ 学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 ④ 練習の場面で、仲間の伝統的な所作等のよい取組を見つけ、理由を添えて他者に伝えている。 ⑤ 体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や簡易な試合を行う方法を見つけ、仲間に伝えている。	① 武道の学習に積極的に取り組もうとしている。 ② 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 ③ 用具等の準備や後片付け、審判などの分担した役割を果たそうとしている。 ④ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。 ⑤ 禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。
単元終了時の生徒の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
仲間と協力して「芦北初段」の技を高め、見る人も感動できるような演武をするとともに、体得した礼儀等の武道の良さを日常生活に生かすなどスポーツに多様な関わり方をする生徒。			
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）		本単元で働かせる見方・考え方	
「芦北初段」の発表会に向け、仲間と高め合いながら各技のポイントをおさえた演武ができるように「心技体」を高めよう。		空手道の技ができる楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割に着目し、空手道の様々な技等を「する」、友だちの動きを「見る」、班員と協力したりして「支える」、自らの演武の良さ・課題を「知る」といった空手道との多様な関わり方と関連付けること。	

指導計画と評価計画（9時間取扱い 本時6／9）			
過程	時間	学習活動（「問い」を設定しても可）	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	1	○オリエンテーション（学習内容の確認） ○礼法指導（立礼・座礼） ○立ち方（閉足立ち・結び立ち・平行立ちなど） ○学習シートについて	【態①】（観察） 【知②】（学習カード）
二	2	【基本の技を磨いて楽しもう】 ○基本技術の確認、習得 ○基本型1の復習 ・中段突き ・上段あげ受け ・下段受け ・前屈立ちで移動 *それぞれの技のポイントを確認しながら行う。	【技③】（観察） ★基本型1のポイントを意識し、正確に演武することができる。 【態⑤】（観察） ★ペア学習の際、周囲の状況を確認するなど、安全に気を付けて練習している。
三	2	【「芦北初段」の名人になろう】（個人） ○「芦北初段」の習得 ・中段突き ・上段あげ受け ・下段受け ・前屈立ちで移動 ・前蹴り ○「芦北初段」の練習（全体練習個人練習）	【態②】（学習カード） 【技①】（観察） ★ペアで「芦北初段」の順番を覚えられるように工夫して演武することができる。 【思②】（学習カード） ★ペア学習で、お互いの良い点や改善点を見つけることができる練習の場を選んでいる。
四	4 本時 1/4	【「芦北初段」の団体形を極めよう】（団体） ○団体「芦北初段」の練習 ○班ごとに個人の動きの確認（教え合い） ○班全体としての動きの確認（ポイント） *オリエンテーション（入退場、隊形、声） 班別演武会（トーナメント戦） *審判は5名の生徒で行う。	【思①】（学習カード）（観察） ★班員と協力して練習し、班員の動きを客観視して、ポイントと比較ながら課題や出来映えを伝えている。 【態④】（学習カード） 【思⑤】（学習カード） ★班全体の課題や良さを班員に伝えている。 【思④】（学習カード） ★入退場、声、隊形などの最終確認を協力して行い、伝統的な所作等のよさを見つけている。 【態③⑤】（学習カード）（観察） ★演武会の役割を果たしている。 *★【知②③④⑤】期末テスト 武道の特性や伝統的な考え方、技術的なポイントや主として高まる体力要素、審判及び運営の仕方などについて、具体例などを挙げ書きだすことができる。

2 単元における系統及び生徒の実態

学習指導要領における該当箇所（内容、指導事項等）
<p>中学校学習指導要領第 2 章 第 7 節 保健体育 第 2 各学年の目標及び内容 〔体育分野 第 1 学年及び第 2 学年 2 内容 F 武道〕</p> <p>武道について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開すること。</p> <p>(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(3) 武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ること。</p>
教材・題材の価値
<p>空手道は、沖縄県において武術として生まれ、国内に普及する過程において日本古来の武道の精神を継承しながら発展してきたわが国固有の武道である。「空手に先手なし」と言われるように自己防衛動作を発祥の起源としている。相手の動きを想定した「基本動作」と高度な技能を組み合わせることで構成された「形」、相対する二人が攻防の技能を競い合う「組手」がある。形を練習する中で、楽しさや喜びを味わうとともに、課題解決に仲間と取り組むことに適している。利き腕・利き足のみを発達させるのではなく、左右を均等に使用する動きが多いため、身体全体をバランスよく発達させることができ、特に調整力の向上につながる。また、練習や試合で、相手を尊重する態度・礼儀・公正な態度等を養うことができる。</p>
本単元における系統
<p>武道は、中学生から新出する必修領域であり高等学校へと継続する。学習指導要領においては、柔道・剣道・相撲の中から1種目を選択履修することとしているが、地域や学校の実情により替えて履修させることができることから本町では平成 23 年度より空手道を導入している。</p>
<div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; gap: 20px;"> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 中学校第 1 学年及び第 2 学年 F 武道 空手道（基本型） </div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 中学校第 3 学年 F 武道 空手道（約束組手） </div> </div>

生徒の実態（単元の目標につながる学びの実態）

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況

昨年度、「基本形1」を行ったが、適切な立ち方、姿勢、目線、技の動作、腰の入れ方、極めの際の大きな声での気合い入れなど、まだまだ不十分な部分が多かった。また、年間9時間しかなく、定着にはいたっていない。

■本単元の学習に関する意識の状況

	楽しい	普通	楽しくない
空手道は楽しいですか。	15名	11名	0名
基本形1を演武できますか。	はい 6名	だいたい 19名	できない 1名
保健体育の授業で、意欲的に取り組んでいますか。	とても取り組んでいる 12名	取り組んでいる 12名	あまり取り組んでいない 2名
課題解決のために仲間と協力して考えながら解決しようとしていますか。	とてもしている 8名	時々している 18名	あまりしていない 0名
考えたことを話し合いで仲間に伝えたり、アドバイスしたりしていますか。	とてもしている 4名	時々している 18名	あまりしていない 4名

*空手道の授業を昨年度行って、難しいと感じたことは何か。

- ・基本的な動作（腰の高さを一定にすること、受けをするときの腕の角度、手の握り方、肘の引き方）
- ・「基本形1」の演武を覚えること。
- ・体を反転するとき、回転する方向がわからないが多かった。

■考察

（資質・能力に関して）

技能の状況に関しては、基本技を使った「基本形1」を大多数の生徒は演武することができる。基本動作を難しいと感じている生徒も数名おり、今年度も繰り返し復習し、レベルアップを図らなければならない。また、空手道に関して楽しいイメージがある生徒が多い。理由として、昨年度、班別練習を学習の後半に取り入れ、自分たちで工夫することに楽しさを感じることができたからだと考えられる。

（学びに関して）

主体的・対話的で深い学びの視点から、学びの状況を見ると、意欲的に粘り強く活動しようとする生徒は多い。仲間と考えを交流させたり、アドバイスしたりすることにまだまだ課題があり、課題解決の場面を工夫するとともに、考えを交流させるように単元計画の工夫が必要である。

3 指導に当たっての留意点

(1) 芦北水俣都市研究主題

【わかってできる 保健体育の在り方】

～一人一人が考えをもって、仲間と関わりながら取り組む学習をめざして～

(2) 仮説

○客観的に自分や仲間の動きを認知し、学び合うための工夫をすれば、「わかる」「できる」が実感できる授業の充実ができるであろう。

(3) 留意点

○芦北町教育委員会から派遣されるアシスタントティーチャー（AT）との事前事後の連携を密にしながら指導を展開する。

○安全面については、寒い時期に行うことから準備運動を入念に行うことや運動量を確保することはもちろんのこと、場の安全確保にも万全を期す。（相手を尊重する礼儀作法をしっかりと励行することが安全対策につながることを指導者・生徒ともに強く意識し活動する。）

○学び合いの工夫

①ICTの活用

- ・課題を理解し、実際に自分の動きを確認する。
- ・仲間と活動する中で、友だちとの比較をするなど、自分の課題に気付けるようにする。

②学習の仕方

- ・基本練習時はペア活動を中心に行う。
- ・団体練習時は3人組→6人組へと移行し、全体との関りの中で考えを深められるようにする。

③技のポイントの示し方

- ・写真掲示、模範の動画を流しておく、学習シートに掲示する。

④学習シートの工夫

- ・今日のめあてを記入し、自分の課題を意識できるようにする。（良い点、改善点）
- ・①わかってできる。②わかるけどできない。③気づいてないけどできる。④気づいてないし、できない。を振り返る欄を設け、根拠となる理論や技のポイントが「わかる」ことを意識できるようにする。

※「人権が尊重される授業づくりの視点から」等（学校が設定する項目からそれぞれ明記）

【3-⑥】他者の成果に学ぶとともに、今後の学習課題や方法について選択・決定できる場を工夫する。

4 本時の学習

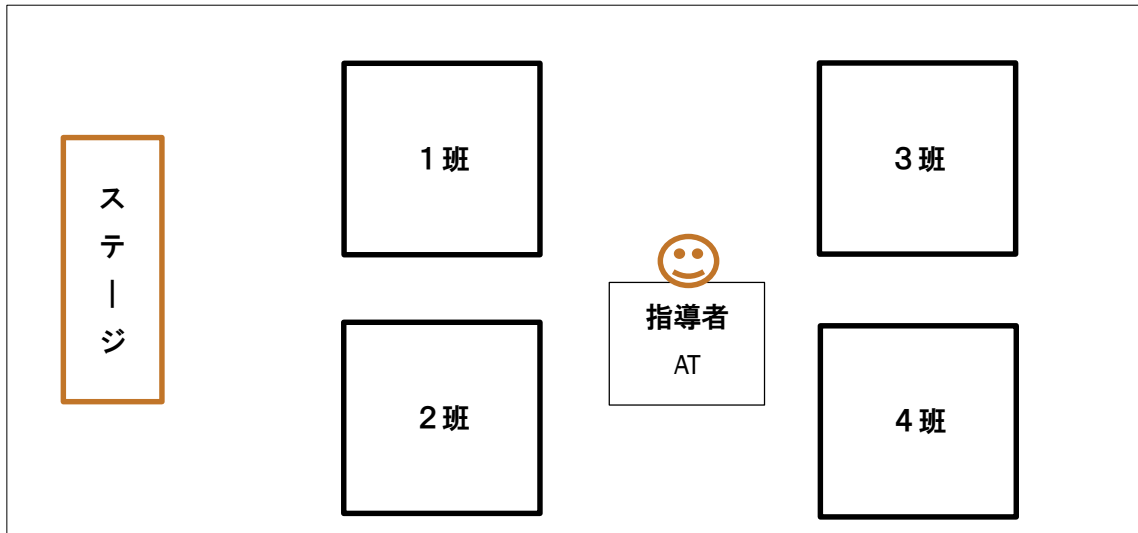
(1) 目標

班員と協力し、考え、教え合い、技のポイントを意識しながら課題を解決したり、出来映えを伝えたりすることができる。 【思考・判断・表現】

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	個人	複数	一斉	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	10分	1 あいさつ、出欠確認、準備運動 補強運動 2 本時の課題を確認する。 【めあて】技のポイントを意識し、よりよい演武にしよう！ ◇技のポイントは○○だね、意識して練習しよう。			○	○ポイントの確認（写真提示） 【技のポイント】 ・腰の高さが低い（立ち幅） ・動きにキレがあるか（間合いも含めて） ・突き：肩が前にいないか ・目線、声のキレ ・基本の動き（受け、突き、蹴り）関節の曲げ伸ばし
展開	35分	3 全体で基本動作の確認 （受け、突き、蹴り）AT 4 手本となるATの「芦北初段」の演武を見る。 ◇ATみたいにできるようになりたいな。 5 班別練習を行う。 ①班を2つに分け3人組で互いの班ごとに演武を撮影する。 ②課題を見つけたり、良いところを見つけたりして、アドバイスをを行う。 ◇自分がイメージしていた動きと実際の動きにずれがあったことに気づくことができた。（仲間と比較） ③反省を踏まえ、繰り返し練習を行う。 【期待される学びの姿】 映像を見ることで3人の動き（自分も含む）を客観的にとらえ、動きを修正している。		○	○	○心の中で声を出し、一つ一つの動きを丁寧に行うようにする。 ○手本を見て、技のポイントを確認する。 ・ATの手本の映像は、ずっと流したままにしておく。 ○撮影する3人は、撮影係、観察係を分担し、お互いに高め合えるようにする。 【具体的評価規準】観点（思・判・表①） 班員と協力して練習し、班員の動きを客観視して、ポイントと比較ながら課題や出来映えを伝えている。 【到達していない生徒への手立て】 ＊映像を見る等、ポイントを絞って見るようにアドバイスを行う。 ○お互いに撮影し、アドバイスをを行う。 ○ATには生徒のつまずきにそったアドバイスをしてもらう。 芦北水俣郡市中体研の主題に迫る取組 ①わかってできる ②わかるけどできない ③気づいてないけどできる ④気づいてないし、できない
終末	5分	7 本時の振り返りをする。 【まとめ】 技のポイントを意識して練習することで、より良い演武につながることがわかった。（技のポイントの再確認も行う） 【前】 例) 腰が高い → 【後】 膝を曲げ、立幅を意識したので腰の位置が低くなった。 動きにキレがない → 技をする前の動きからのつながりを大切にすることで、メリハリがある演武になった。			○	○ポイントを意識した練習をすることで各グループの課題がどのように変容したのかを発表させ、子どもの言葉でまとめとする。 ○班全員で協力し、良い演武を行っていた3人組を紹介する。（映像を見せる） ○次回の予告 技のポイントも含めて、班全体の演武をよりよくするために班別練習を行います。入退場も含め、どんな視点が大切か、考えてきて下さい。
		8 次時の学習内容を確認する。 ・次時への学習意欲を高める。 （班別練習計画）				

【場の設定（班別練習）】



【ICT活用計画】

生徒自らが動きの確認を行うためにタブレットを活用する

- ・基本の技の習得や団体形での班演武の課題を把握する場面で、生徒は主体的にタブレットを活用し、自他の動きなどを繰り返し映像で確認することで課題に気づいたり、グループで改善点を洗い出したりすることができるようになることを考える。
- ・ATの演武を撮影し、ATが来校されない授業で動きの確認を行うときに活用したり、授業の中でいつでも見て確認したりできるようにする。（映像を流しておく）

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

単元の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む

- * 技や移動のポイントを根拠とし、タブレット等を活用しながら自分の班の動きを客観視することで、課題を明確にし、次の時間の内容を計画して練習ができるようにする。
- * 演武会へ向け、隊形や声の出し方等、班ごとに工夫したことをレポートにまとめ、来年度の後輩の参考資料を作成する。